

門 九三
號 九六〇
卷

日本麻子卷第八

東山道八ヶ国之内

近江国十三郡大上左国四万三千半

志保 シカ 栗本 クリモト 也列 ヤス 蒲生 カマフ

大上 イノカミ 神保 カシサキ 坂田 サカタ 亀超 カメノ

浅井 アサイ 伊香 イカウ 多保 タカシマ 甲賀 カウカ

ヨシス
長狭

知行高八十三万二千百二十石

彦根之城 江尻リ甲及通百七十五

東海及百六十七
上及通百六十六



往古當國以少者後并備前守
長政欣之丹羽五良左衛門長秀居
之天正十一年以末城父太郎秀政為居
城其後石田治部中補光成居之
井伊直政代移當城
慶長五年ヨリ
十五万石
井伊兵部補直政

同右近大夫直勝
三万石園東本
同掃部頭直孝

内
十方石大坂邊
度加增五万石
大猷院殿御代加增

同之
同掃部頭直澄

○當城主

同掃部頭直道

同國

○水足城

同掃部頭直帷
江戸ヨリ百六リ

大猷院殿御代新城

園之原以前有城長束
太藏太補正家居之

○御番城

山圍至計頭鉄炮頭交替
山口但守寛文十二年
但守免以後為交替

二万石

加藤内藏佐明友

同佐治守明英

當城主

居播守崇以

加藤和泉守喜矩

同国

膳所之城

戸田左門一西代廃城大津移
當城園ヶ原没落以後築之

六万石居城大津

京極宰相之次

若久小湊口所替

三万石

慶長五年ヨリ

戸田左門一西

同之

日左門氏鉄

元和三年攝公尼ヶ湯口所替

三万石

元和三年ヨリ

本多後康
康 俊

嫡子下総守俊次代

三及西尾江所替

三万石

元和六年ヨリ

菅沼織部正
定 芳

寛永十一年丹波龜山江所替

七万石

見永十一年ヨリ

石川左殿正忠綱

嫡子昌勝代勢川龜山江所替

七万石

慶安四年以後

本多下総守
俊 次

同之

當城至

日兵部右補康將

同 限 守

同下總守康命

六万石

外二万石舎第伊豫守之兵於子也
限彼守候者也

同国

仁正寺

江戸ヨリ百六リ

是万八千石

市橋下總守

同国

小室

官月百六リ余

是万二千石

小堀備中守政命

同国

大湊

江戸百リ

東海道百九七リ
又長浜百十リ

二万石

分部左京亮信義

同国御代官

三百石土内

六百石永原

松畑源三左衛門

松野十郎

六百石大津

三百石大津

小野才之助

小野長八左衛門

三百石

六百石

一旦吉兵衛

小堀源左衛門

三百石

金丸又左衛門

同大津河蔵元

福徳八左衛門

松本三左衛門

布施庄左衛門

長坂新左衛門

同国神社之大概

建部明神

栗本郡立

神社の御祭体大己貴命

大哉天より自周四年社建之為公

の一宮ト云

多賀大明神

大上郡立

神社の御祭体八咫少彦也ト云

社領三百五十石

別當 不働院

竹生流

候并郡湖中
有之流也

景行天皇十一年乙未生、多國後
井郡湖中、辨才天女也、又妙音委
二云祭六月十五日也

杜領三百石 杜僧守之

自髮大明神 志安郡 打下立

為社の所、後田彦命の安跡
社代、後、後、後ト云

杜領百石 別當 福壽院

伊吹大明神 栗本郡 伊吹里立

為社の所、伊吹八岐蛇の變、
所、ト云

八幡宮 鞭 栗本郡 矢橋立

天武天皇、自鳳四年二月十五日
依勅、勸請、ト云、奉行
大中臣清麻呂ト云

社領三十石

同社 坂田郡立

杜領百七十石 別當天台畏使

同社 禮山立

社領五十石 比立尾

同社 法苑山立

一、院の所、今、以、
ト云

水尾大明神 信都郡 水尾村立

祭二月廿二日の日、
劇

源記未詳

綿向明神 村井村立

社領十石余

日吉神社 坂本立

天智天皇の所、
の神、伊、
體也

桓武天皇、延、
社建立

祭の始、後三條院延久四年四月
月九日始、被後之四月十日
中の甲の月也、比叡山の終焉
二十一社終焉

由王

本地業所

大宮權現

本地釈迦

天照太神の參跡也

聖太子

本地阿彌陀

八幡大弟の分所也

二ノ宮

本地

八王子

千手観音

客人宮

十一面観音

白山禪定寺也

十澤寺

地藏大弟

三ノ宮

聖賢井

中七社牛所子

大廣徳天

大乃事

毘沙門天

早尾

不働尊

氣比

聖観音

下八王子

虚空蔵

王子宮

文殊尊

野々

如意輪

下七小幡

弥勒菩薩

悪王子

是深の王

難行事

吉祥天女

岩跡

赤明天女

山末

戸利支天

劔宮

不働尊

大宮竈殿

大日如来

聖真子竈殿

金剛東天目

三宮竈殿

日光月光

大津の宮の即位元年の老翁
現して是は大比叡の宮也

と修教を評する等の金毘羅神
とありありと考ふる事多し
号々曰山王以日吉の神神体
と云ふことあり

佐々木神社 蒲生郡立

神体少彦彦名の命也
社領八十石

四宮大明神 志賀郡立

大比叡 小叡 氣比
十禪寺の四座是也ト云ク
午頭天王 栗本郡立

文氏天皇慶雲元年三月四日
あまの影向ト云ク

筑紫麻里神社 坂田郡立

あまの御食津の神の
坐跡之に事あり
祭四月朔日也

苗麻明神 志賀郡坂本郡
苗賀村立

天智天皇七年に建立ト云リ

関明神 日那
會坂関立

あまの神の神は蟬丸の具神ト云リ

秀御社 栗本郡立

あまの田原友志秀御神の具と云
はる所之秀御へ朱雀天皇の時
の人の藤の村雄のあまの号は
あまの神文城に於て取人也

田村大明神 甲賀郡立

新羅大明神

大津天皇 大津立

石部神社 甲賀郡立

吉原大明神ト号ス

彦根明神

蒲生郡

為社の御神(活津彦根命)

の安跡といふ

同国中諸宗佛閣之大概

三井寺 号長等山園城寺

尚寺のま創天智天皇天武天皇
持統天皇三代之に於て
待和高建其後貞觀十年に
知證大跡に附屬其始大女の皇
子丈六の弥勒の像と作て本尊と
号三井福寺天下室祖の祈所不
天智天皇天武天皇持統天皇は
此門の誕生のゆゑ松陽山寺の井の
水と汲てなほしよの三井寺と
いふあり

寺領四千八百石

尚寺の鑿造るの儀天武天皇
に於て所の室物ト云西國三十三所之
次礼觀音札所付千四番也觀音
堂五間四面南向也

石山寺

孝謙天皇天平勝室六年に
創其後聖武帝の御宇に良辨上
人丈六の觀世音の像と作て此の
佛と今の佛像に似多と云

寺領五百七十九石

上東門院の宮女某某部ありて
り觀世に祈誓し其の分付
の月湖水にうつりたると水想
観と成物し自願智とて
物造と作り此の巻あり書
物といひ別式於自毫の松
像あり

西國三所吹礼統是礼所分千
云壽也當八南向也
石間寺 勢方田立

元正天皇の御宇に奉造大内建立
号正法寺本尊太子手執是則大
内守り本尊ト云西國吹礼礼所
分千二米由也

觀音寺 蘆浦立

本号此長三尺の个手執是奉造
太子の御所也西國吹礼礼所分千
一米由也天台宗守之

寺領五百六十石

西教寺 坂本立

本寺以念以三昧真成盛法所の開
山号知善院天台宗守之

寺領九十石

志賀寺

桓武天皇延暦五年に奉創坂本
号林光釋寺

長命寺

本寺は武内の大長建立本号是
奉造極太子の御所也西國吹
礼所分千二十一米由也

浮御堂 堅田立

一際院の御宇惠心の僧都元基是
以是田千體佛堂号

善勝寺 神傍郡立

本寺は良正上人の元基田村九再
真ト云

建福寺 志賀郡立

本寺は天智天皇七年に奉創ト云

永源寺 志賀郡立

元基寂室中真死山一絲佛頂圓
際ト云

神昭寺

宇多天皇寛平七年次奉創勅願寺也

長光寺

聖德太子^{イハヒ}の后^{イハヒ}の階^{イハヒ}の妃^{イハヒ}建立也世武佐寺と云

阿弥陀寺

志保郡立

寺以千七百天台宗守之

石塔寺

蒲生郡立

聖德太子四十六箇寺と造^ル此の寺也^ル本^ル形^ル成^ル物^ルと云^ル也

法界寺

日野^ニ立

仍教大原建立本寺業^ル修^ル之日野資業三位修之

寺領十石余

金剛輪寺

松尾村立

寺領三十石 天台宗守之

錦織寺

存孝上人の末子慈空建立

死山元ハ涌土宗也

經王寺

為^ル寺^ル小野^ルの道^ル風^ル建^ル立^ルト云^ル

飯道寺

甲賀^ニ立

寺領二百石天台宗守之

長西寺

寺領百石比丘尼所ト云^ル

吉祥寺

後奈良院天文年中水^ル兼^ル兼^ル建^ル立^ル

英兼建立

來迎院

真言建立^ル念佛^ルの行者也^ル佐々木^ル之^ル教^ルの四男也

宝隆院

海津^ニ立

寺以二十五石 真言宗守之

觀音堂

竹生嶋立

本寺行基の作等身の子午
親善西國吹礼礼書中二十番
あな分

正明寺

日野立

後水尾院寛文年中再興
勅願寺則勅願寺之御宗也

大徳寺

水口立

寺領二十九石涌寺

九品寺

大津立

右同宗

常善寺

草津立

寺領五十石右同宗

西光寺

刀村立

寺領十二石右同宗也

同國名所之部

尚必公南小川原よりありぬ東西
之南小川原に海あり西京より
東へは相取山と云ふ里あり

西近江分

関小川

相取の山中也関の屋敷を
とて関川と云

相取山

関山 日向山

松平の侯と関の中ありたり
行きてとて名所あり

打出の侯

湖の邊あり関あり千町あり東
あり今津の関と云所之打出かハ
南西を流のなるぬらんの吹道也
は名所也の序割也

物ありて打出の侯と云所也
物にありたりありのうら

栗津の志

栗津の汀より三湖の志

栗津の南也橋へ西へ入り長九千

ありあり橋のふりたるふり等見

野原長橋

但唐橋云

ゆり葎の志此之新古今頼の

依り一匡房

栗木の依り古を今中あり

いく代へはしり橋の長橋

石山

親善の志此之新古今頼の

の所は三湖の志路を南へ入

のまはりのそ湖と川流なるの志

と南へ流り世流の志橋を流

てて流(志)志ありは流(志)橋を

ふぬの志あり十町あり也古系長橋

の志あり

栗津の志あり

大津

宿あり打分の橋ありありあり十

町あり東へ湖西へ也

三井寺

大津の東へ園城寺と志系親路

池佛橋の前あり世新三井の水

あり王子のう板橋とわさう依り

井と寺との志あり

徳城

唐橋

花園

大橋田の志ありありありあり

ありありありありありありあり

ありありありありありありあり

ありありありありありありあり

栗津の志あり

荒はりのまの古の冬に六
雨とさうぬるのころその

彦俣

志望は遠く西之世所よひとの松
いふあり非も也

彦俣

打おのの松が八中ち三里中へ
あり松がよあり也

彦俣や松の中よあり松

彦俣は松方のよまの秋も也

彦俣

彦俣のあひの中はつらあり

あつと彦俣の海にゆく松の

月あつたあつ松の月あり

彦俣

彦俣は松根た云

彦俣の西國の及十二里也彦俣の
のころに彦俣の松の松下の松の

彦俣の松の松の松の松の

彦俣の松の松の松の松の

彦俣の松の松の松の松の

彦俣の松の松の松の松の

彦俣

彦俣の松の松の松の松の

彦俣

彦俣の松の松の松の松の
彦俣の松の松の松の松の
彦俣の松の松の松の松の
彦俣の松の松の松の松の

彦俣

彦俣の松の松の松の松の
彦俣の松の松の松の松の

彦俣

彦俣の松の松の松の松の
彦俣の松の松の松の松の

彦俣の松の松の松の松の

あまの御魂地御社の御座り
月にはては御座り
臨津 ミツ 海津 ウミツ

陸津と云ふ所の御座り
近所の御座り
所所の南の御座り
前所の御座り
陸津の御座り
約の御座り
すらの御座り
うの御座り

東近江の分

信永城 シカフキ

本國の南の御座り
金葉子の御座り
陸津法師
於たは御座り

田上川

田上川の御座り

田渡 タワタ

矢橋の御座り

東津の御座り
海津の御座り
野津 ノツ 海津 ウミツ

野津の御座り
海津の御座り
野津の御座り
海津の御座り

三上山

三上山、山嶽をいふ所の峰下とて、流る
川、東海川といふ
後村丹波太政大臣

音山

音山、一里の近き所ありて、里を
流る川、東海川といふ
奉天、新羅の川

奉天、新羅の川、
下を流る川、東海川といふ
此の川をいふ川、東海川といふ

鏡山

鏡山、東海川より、東海川といふ
流る川、東海川といふ

月山

月山、東海川より、東海川といふ
流る川、東海川といふ

流る川、東海川といふ
流る川、東海川といふ

蒲生山

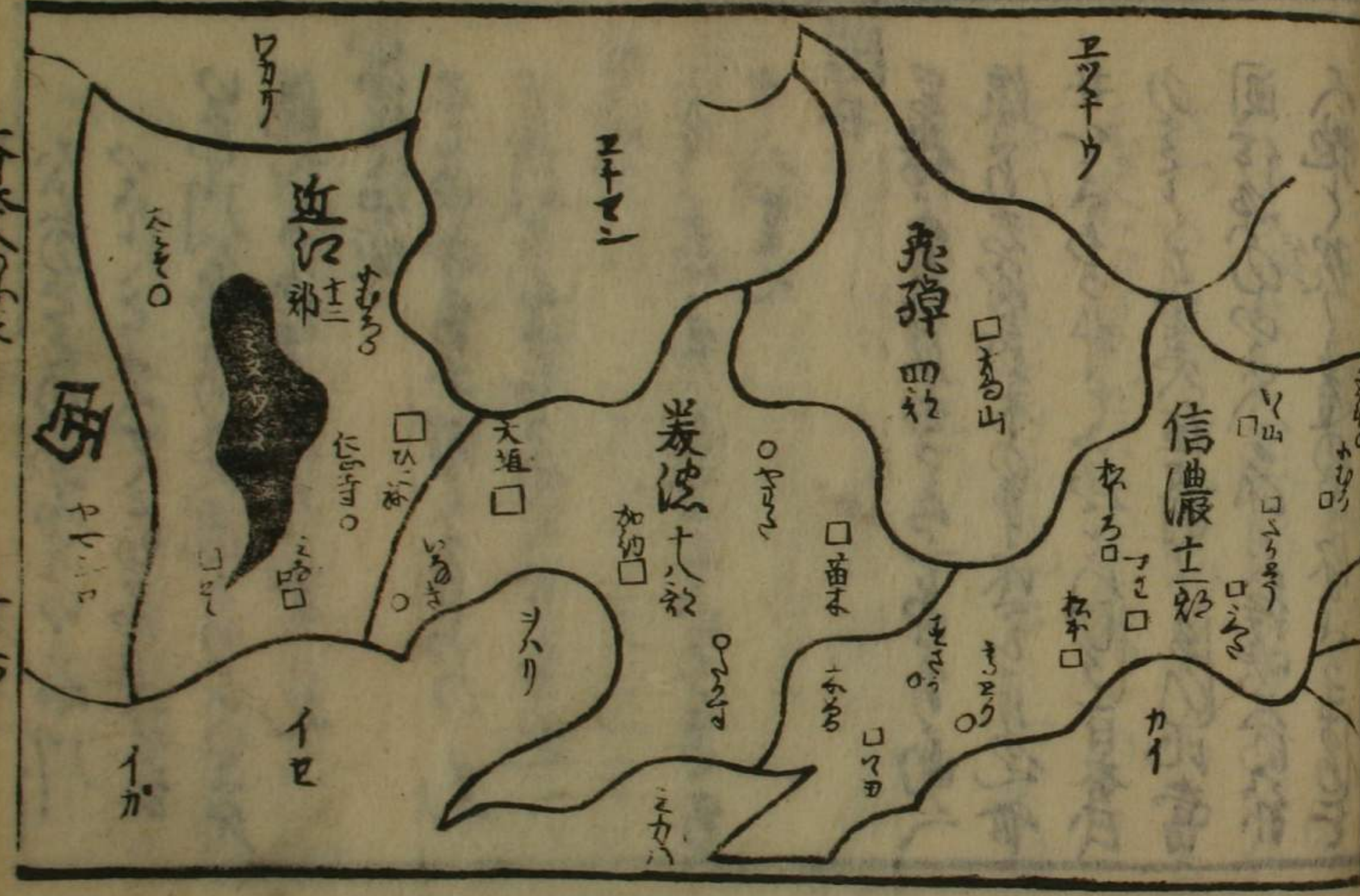
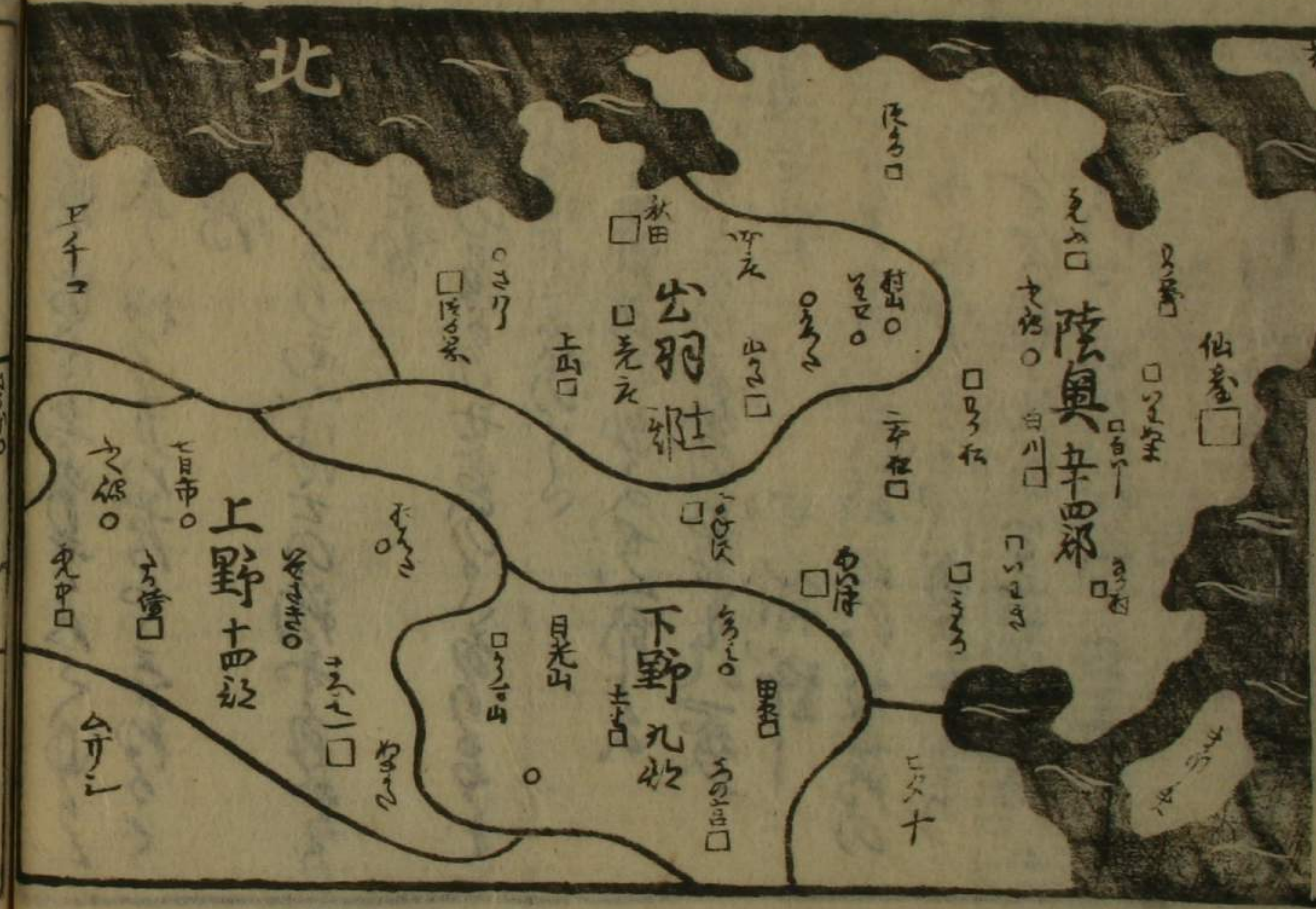
蒲生山、東海川より、東海川といふ
流る川、東海川といふ

色山

色山、東海川より、東海川といふ
流る川、東海川といふ

茶松

東山道 八ヶ国



大田木八右衛門
この山の上の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に

小田の山

この山の上の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に

小田の山

この山の上の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に

醒井

この山の上の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に

この山の上の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に

醒井

梓川

この山の上の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に

統摩

この山の上の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に
いかに山頂の山頂に

てそのまゝの用ひのりなる
焼物の焼物

水莖云々
そのありとくは

同国中名物分所全部
のりなる

蛇膏 蟬脱 蛭 蛭 蛭

苧灰 蛭 蛭 蛭

湖氷 鱈 鱈 鱈

日鯨 日鯨 日鯨

小糸 小糸 小糸

日膏 日膏 日膏

木名 木名 木名

砥石 砥石 砥石

田上氷 田上氷 田上氷

燒物 燒物 燒物

是は国友張ト云

日野 日野 日野

守山 水口 矢根 日キセル

日暮 葛籠 笠

菅 菅 笠

八幡 燈心 多岐 子

辻村 燐 式 佐 伴

向 墨 刀 毛

伊吹 草 丈

獨活 小 山 子 紙

野 郎 隈 布

絹 着 ち 紙 豆

送 分 針

当 歸 山 葵

長 庚 糸

京上東海道

宥く道法付る国中之命

勢力及政の下ヨリ

高岡 太山、二里半

政の下に... 勢力及政の下ヨリ

て... 高岡 太山、二里半

あり... 勢力及政の下ヨリ

あり... 高岡 太山、二里半

あり... 勢力及政の下ヨリ

あり... 高岡 太山、二里半

あり... 勢力及政の下ヨリ

あり... 高岡 太山、二里半

あり... 勢力及政の下ヨリ

あり... 高岡 太山、二里半

あり... 勢力及政の下ヨリ

あり... 高岡 太山、二里半

あり... 勢力及政の下ヨリ

あり... 高岡 太山、二里半

あり... 勢力及政の下ヨリ

あり... 高岡 太山、二里半

あり... 勢力及政の下ヨリ

あり... 高岡 太山、二里半

大日本八景

○此の村。野村あり。云竹と云水
の流に在る

水口あり 石段、三里半六町

○此の村は、つらつらと云を流りあり
○この村のありて、赤石の川あり、
○の宮松のありたりあり、たのうたは
あり。小川村。泉村。また、川あり
○石川村。あり。村。あり。平松村。
○うじ、袋村と云ふことと云て、
に在る

石段あり 長津、二里半、四丁

○町と云ふあり、木のたて、
に在る、さかたの、
ありて、
あり、
あり、
あり、
あり、
あり、
あり、

大ゆあり 水口、二里半、八丁

○此の中、
あり、
あり、
あり、
あり、
あり、
あり、
あり、

此東部の国々人々多し一むらふまの
 初てたのこもす 下は諸島の地あり
 のあふはむしうしむはぬまの国は
 之尸ス郷位ありありむらあふま
 町のたのこは後てむしそらあむら
 るのこはあふまむしそらあむらむ
 不あり向不の民衆のじらたむら
 海もむらむらむらむらむらむら
 たむらむらむらむらむらむらむら
 あり永執書ふふふふ田自川行護
 津のあふむらむらむらむらむら
 けむらむらむらむらむらむらむら
 るは津田津の地むらむらむらむら
 づたのむらむらむらむらむらむら
 けむら南けむらむらむらむらむら
 自川津むらむらむらむらむらむら
 後てむらむらむらむらむらむら
 河三東のむらむらむらむらむら
 十五町あり

東の江を中流あり海道

舟楫は遠道中流あり

東のあり東津の道の法は東海

たの舟はむらむらむらむらむらむら

東津あり 舟あり二里半

○むらむら○あのか川たのこは地を

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

舟あり 舟あり二里半

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら

舟あり 舟あり二里半

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

○むらむら○むらむら○むらむら○むらむら

と説き及ぶるを仍て小考と定
と云人の居跡ありて云々建致道
東の首末の末の云々著作
たりのありて云々河原。と云々
川あり。小なる川あり。と云々
云々あり。川あり。

御川のあり 二里

云信云云あり。と云々門あり
あり。と云々島。中丸
あり。と云々。と云々あり。

二里あり 二里あり

と云々の入り。と云々の
往。と云々の。と云々の
は。と云々の。と云々の
。と云々の。と云々の
小。と云々の。と云々の

二里あり 二里あり

と云々の。と云々の。と云々の
。と云々の。と云々の。と云々の

二里あり 二里あり

と云々の。と云々の。と云々の
。と云々の。と云々の。と云々の

二里あり 二里あり

と云々の。と云々の。と云々の
。と云々の。と云々の。と云々の

二里あり 二里あり

と云々の。と云々の。と云々の
。と云々の。と云々の。と云々の

二里あり 二里あり

と云々の。と云々の。と云々の
。と云々の。と云々の。と云々の

是ヨリ未之宿とい部之國之分定
仲仙道宿と道法付高四中
之分

石津ヨリ 不破ヨリ 安八ヨリ 池田ヨリ
大野ヨリ 本泉ヨリ 席田ヨリ 方縣ヨリ
厚見ヨリ 各務ヨリ 山縣ヨリ 武義ヨリ
元明天皇和銅六年信濃國割置當國

東山道八ヶ國之分

元明天皇和銅六年信濃國割置當國
美濃國十八郡六上國南北三月
石津 不破 安八 池田
大野 本泉 席田 方縣
厚見 各務 山縣 武義

郡上 賀茂 可見 土伎

知行高五十八方千五百二十石

○岩村之城東海道九十三里半

當城八信長之時天正十一年
木林蘭丸 九方石領シ居之云

田丸中務

慶長六年二万石 松平和泉守家乘

曰和泉守家乘

寛永十五年遠及濱松所久

寛永十五年ヨリ 丹羽三々補氏信

曰三々補氏定

一万九千石

日守の安藤氏純

日守

日勤の伊氏信

後長門卜政

貞享三年三月に陰相怒平去伯父權兵衛の男ヲ養子トス

○當城主

三妻、松平兵庫頭

日守

○苗木之城

本名海八十四里東海に百四里

城主之次男

一万五千石

慶長五年ヨリ遠山又兵衛友政

先祖代々當城主也其後本領離園之原没以後再堵入

日守

日形部秀友

日守

日信濃守友貞

○當城主

日和泉守友春

同伊豫守友章

日守

○加納之城

中込及百四里四丁東海に九十七リ六丁

當城公園之系没以後貞平信昌筑赤城也

十方石

慶長六年ヨリ貞平義作守信昌

日守

信政三男賜松平氏

松平攝津守忠政

日守

日飛彈守忠隆

五方石

交保加智守忠秀

寛永十六年幡及明石所替

寛永十六年ヨリ 松平丹波守重長

○當城主

外二万石五千金宛茅屋孫百登配令

月国

大垣之城

東海及九十九丁中約及百十三丁

城主代之次守

天正十一年

池田紀伊守筋

女將秀勝

秀次弟

伊藤彦兵衛

五万石

慶長五年ヨリ

石長門守康通

日向守家成

家成者康通父也関ヶ原陣以前限居也慶長十二年康通平去仍再領云

日向主殿頭忠綱

五万石

元和二年ヨリ

松平甲斐守良忠

嫡子孟良代信及小諸所々

五万石余

岡部内膳正盛長

嫡子表濃守代攝及小所々

六万石

寛永十年ヨリ

松平越中守綱定

日向主殿頭及兼石所々

十方石

日向主殿頭

戸田左門氏鉄

日向主殿頭

日向主殿頭

日向主殿頭

日向主殿頭

日回 當城主 日采女正氏定

日回 高須 東海道九十五里六丁
中仙道百十一里四丁

松平松津吉長行

日回 八幡

戸田江崎吉氏廣

郡 金森出雲守頼吉

御 六百五石 岩出藤左衛門

日御代官 間瀬吉太夫

長谷川六兵衛 石原清左衛門

同回神社之大概

南宮大明神 不破郡立

南宮大明神 不破郡立
南宮大明神 不破郡立
又南宮大明神 不破郡立

杜領四十五石 別當天台

白山權現 大聊郡立

杜領三百石 別當末根寺

天王 池田立

あいの元のまゝにわが御年中に院を
のまゝにまゝに尾及び侍所の院を

牛頭天王と竹木(幼信)云々

八幡宮

二井 千駄橋立

尚社六の部四の部郡界の
界の公多々今依八幡宮の
あり八室年中世所の
君の事のとありて幼信ト云

日社

大垣立

社領十石

日社

小松系立

社領十五石

明神

山縣立

社領三十石

日社

西村立

社領十石

天満宮

加納立

尚社小野宗系と幼信ト云

石津明神

石津郡 山根村立

尚社の以米大己貴命(空跡)ト云

日國中佛樹之大概

地藏寺

善坂立

天の寺あり寺領四十石余

観音寺

月立

右日宗寺領五十二石

素根寺

大野郡立

右日宗寺領三百石

不御院

一久村立

右日宗寺領八石

滝養寺

滝多宗寺領三十石

妙應寺

金津村立

右日宗寺領二十石

九郎寺

佛嶽立

右日宗寺領十五石

天津寺

大目林八村の 廿八

華嚴寺

名曰宗寺於五十五石
各級立

祝彌天皇延喜年中建立本寺
十一面觀音坐定山豐然俗名谷汲
寺の西四十三所取孔観音礼
書打納也

立政寺

不波郡

備土宗定基源空上人本寺彌
陀寺於五十五石

阿弥陀寺

西山立

右曰宗定基源空上人の寺
勢観坊ト云

金蓮寺

岩井立

時宗寺於三十五石余

妙光寺

野村立

法花寺定定基目像上人後寺
跡の山寺建立ト云

勝願寺

松村立

名曰宗

同國中右所之部

不破山

いさかの不破あり雲うる
あり不破の雲居の傍あり不破の
小雲うる不破も雲うる不破
と云わりありあり

野上里

不破の雲あり二里を定
乃くのひらり也風雅春の
不破の雲あり不破の雲あり

雲の荒川

中濃の山 中山立 小山立
雲の荒川のうららけの川に
あり也右と云所の川あり

雲井

雲の荒川の川あり

西の河川の流を定めて東を
おぼろの二里を定めて東を
釣長の川

青野原

青野原の東の川を定めて
くまの川を定めて

養老の滝

養老の滝の東の川を定めて
くまの川を定めて

長橋の里

長橋の里の東の川を定めて
くまの川を定めて

長橋

長橋の里の東の川を定めて
くまの川を定めて

稲葉山

稲葉山の東の川を定めて
くまの川を定めて

養老の滝

養老の滝の東の川を定めて
くまの川を定めて

同国名物出所之部

同国名物出所之部

糸綿 イトワタ 絹 キヌ 厚紙 アツシ 中折紙 ナカマゼ

典具 テンク 温石 オンシタ 藍玉 アイタマ 白施子 サシコ

根深 ネコ 官代 美奈瓦 ミナヅ 世に美奈瓦

八屋釣柿 ヤツリカキ 日枝柿 ヒエカキ 日本練 ヨメリ

漱焼物 ソウキモノ 多四申焼しもの小伊物カ 天有ト云しは所ヨリカ

関刺刀 セキカミナリ 小刀ホ コカタナ 刃土 ヤキバツチ 雄修布 オシメヌ

故阜鯨 キフノアユ 日鴉 ヒカ 黒復鯉 クロフタイ

小出鶴 コイセ

京ヨリ 京都 遠法付膏圓中
之命

近江國 振京の宮のの

高圓 タカノ 一里

○山沖と云所の糸新可寄

乃あてあり

関ヶ系ヨリ 雲井一里

○松尾の西の地是より尾

乃系地あり

雲井一あり 一里半

町と云は川合の川合

川合の川合

山と南と云と云

わのこいばありのひがしにありてあり
あつ後ヨリ ちびぢ(ニリ)八丁

このちびぢあつてありてありの西
の音線とてありてありてありてあり

○町ありてありてありてありてあり
○町ありてありてありてありてあり

○町ありてありてありてありてあり
○町ありてありてありてありてあり

わのこいばありのひがしにありてあり
あつ後ヨリ ちびぢ(ニリ)六町

このちびぢあつてありてありの西
の音線とてありてありてありてあり

○町ありてありてありてありてあり
○町ありてありてありてありてあり

わのこいばありのひがしにありてあり
あつ後ヨリ ちびぢ(ニリ)四里

このちびぢあつてありてありの西
の音線とてありてありてありてあり

○町ありてありてありてありてあり
○町ありてありてありてありてあり

わのこいばありのひがしにありてあり
あつ後ヨリ ちびぢ(ニリ)二里

このちびぢあつてありてありの西
の音線とてありてありてありてあり

○町ありてありてありてありてあり
○町ありてありてありてありてあり

わのこいばありのひがしにありてあり
あつ後ヨリ ちびぢ(ニリ)一里

このちびぢあつてありてありの西
の音線とてありてありてありてあり

○町ありてありてありてありてあり
○町ありてありてありてありてあり

わのこいばありのひがしにありてあり
あつ後ヨリ ちびぢ(ニリ)〇半

このちびぢあつてありてありの西
の音線とてありてありてありてあり

○町ありてありてありてありてあり
○町ありてありてありてありてあり

わのこいばありのひがしにありてあり
あつ後ヨリ ちびぢ(ニリ)〇

中津川ヨリ 尾合 一リ
比良のこた苗木かあり
尾合ヨリ 中合 一リ

世承ひあいのりあぬ水申一合
大とこいさありの十石揚坂あり
尾合の尾合申家部申あり
是のり申之家部い尾合の國之合

かあびあつたは、
まのちとくは、
あ

尾合のり申申他道家
尾合村の國ヨリ尾合宮と合

比良 比良の宮あり

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

比良 比良の宮あり 一リ

東山道八ヶ国之内

飛騨四郡下ノ國南北二月

ナホハラ ミシダ アマノ アラキ
大原 益田 天野 荒城

知行高三方八千七百六十石

高山之城 望合リ百三十二里

城主之次第

三万八千石

金森五郎命長

後兵部卿法印ト号ス

同リ 日出雲守可重

同リ 曰長門守頼直

入道立軒ト号ス

同リ 曰雅道守可尚

曰出雲守頼持

松平加賀守綱紀

元禄五年キリ

同国中神社并 寺院之部

水無大明神ミナシ

天野ト 立

此社の所祭天巳貴命女神歳神也當国の一宮ト云

著名明神

大原ト 立

八幡宮

その山立

此社ハ山城國ノ訓那郡石清水カ

細信ト云

後桓宗院の御宇ノ承安年中

明神

益田郡松森村立

信よニヤグミの所ト云道徳神

正福寺

川根立

曹洞宗之本寺也其基の作

千手観音あり

浄土寺

その山立

養保年中の所創建保年中に再興源空上人の弟子也也上人也ト云

同国名所之部

ひびの雲ハ山國ノ海邊を一に

てあるはひびの細江ト云又

三郎の川 位山 朝日の家

後水の系ありと云ふ所ありと云ふ所あり
道ありと云ふ所あり

同國中名物

綿ワタ 監硝エビ 銀銅 揚枝木ヤウジキ
楳カハラ 弄桔ナギキ 鶉ウズ 鳩粟トビコ
古川鮎フルカハエ アシメ 紬ツギ

東仙道八ヶ国之内

信濃国十二郡大々下国南地音
水内 高井 埴科 小縣
佐久 伊那 諏訪 筑摩
三畏 文級

知行高五十四万七千三百六十石

○古諸之城 江戸より四千里十丁

當國公厲信玄時代武田左馬頭
信豊為城主云々

天正十八年ヨリ 仙臺越前守 秀久

曰兵部兼捕忠政

元和八年ヨリ 國上田所所替
元和八年以後 駿河大納言殿持分

寛永元年ヨリ 松平肉備守 良益

慶安元年ヨリ 青山肉備守 宗俊

寛文三年ヨリ 酒井日向守 忠能

延宝七年ヨリ 駿及田中江所替
西尾隱岐守 忠照

大目録八巻の
三十五

二万石

石川泰作守

曰

○當城主

曰吉十郎

後表作卜父

○日國
上田之城

一万余石 牧野周防守康重
望月四十六里半

城主之次第

真田源正一佐次三男

真田安房守

昌幸

初名源五郎

曰伊豆守信之

六万石

仙石兵部補

忠政

元和八年以後

曰

曰越前守政俊

○當城主

四万八千石

松平伊加守忠榮

外二万石伯父次左衛門配分父兵部忠政

早世依之祖父政俊ヨリ譲請

○日國

○諏訪之城

江戶ヨリ

城主之次第

日根野織部正

高吉

曰織部正吉明

下野壬生一所裔

高橋八次郎成代領之中絶シテ

又慶長六年ヨリ本谷ニ復ス

三万二千石

諏訪内膳守

頼水

曰

曰出雲守忠恒

三万石

曰安丸守忠虎

○當城主

外二万石八弟兵部曰右衛門
千石宛配分之

○松本之城 石戸有り六十一リ

城主之次第

十方石

天正十八年ヨリ 石川出雲守 教正

八方石

曰玄米田頭

父出雲守知行之内二方石

玄米田頭令之云々

八方石

慶長十八年ヨリ 小笠原共部守補 政秀

曰云々

曰右近大夫忠貞

元和三年幡及明石之所替

七方石

元和三年ヨリ 松平丹波守 康長

寛永十年幡及明石之所替

七方石

寛永十年ヨリ 松平出羽守直政

中納言秀三郎

曰十五年出雲松江之所替

十方石

曰十五年ヨリ 堀田加賀守正盛

曰十九年下総佐倉之所替

七方石

曰十九年以後 水野隼人正忠清

曰云々

曰出羽守心齋

曰云々

曰出羽守忠周

○高城圭

曰因

○高遠城石戸有り 甲及通五十五リ 上及通六十四リ

當城者武田晴信時代

仁科氏領之

城主之次第

保科彈正忠直

京極修理大夫高知

慶長五年ヨリ 再城至三万石 保科弾正忠直

曰之 曰肥後守正光

寛永十三年ヨリ 出羽内形へ所替 曰肥後守正之

寛永十三年ヨリ 三万石 鳥居主膳正忠春

曰兵部少輔忠常

曰国 當城主 三万三千石 曰及弥三郎

飯田之城 信守り申及通平六郎 城主之次第

天正十八年ヨリ 毛利河内守頼秀 京極宰相高次二男也

八万石 京極修理大夫 高

慶長六年丹及台津へ所替

慶長六年ヨリ 小笠原兵部少輔 政秀

元和三年ヨリ 脇坂淡路守安元

曰中務少輔安吉

外至志伯父右衛門配分之 寛文十二年備及瀧野へ所替

寛文十二年ヨリ 堀表作守親吉

曰周防守親貞

曰富城主 曰大和守 親常

曰国 飯山之城 信守り六十四里余

為源天正五年上叔景虎統率之
曰七年哉物則景虎家系不立良
澤上倉小左原南條中曾根小境
北條今井顏戸尔交替守之其後
曰家臣森庄系稻葉彦六永井
源四郎替守之

天正十八年ヨリ

森若近大夫忠政時分

家來同左京居之

四万石

皆川山城守廣熊

松平上総公家臣

三万石

慶長十五年ヨリ堀丹後守直存

元和三年越後長岡へ所替

三万石

元和三年以後

佐久間備前守安次

曰々

日向守安長

曰々

曰三五郎勝長

四万石

寛永十六年ヨリ

松平大膳亮忠重

○當城主

永井信直守直敬

○同國

川中嶺天云

青山大膳亮守信

○松城

江戸ヨリ五十二

城主之次第

十二万石森氏彦守長一男

天正八年

本林右近太夫忠政

表作津山へ所替

松平上総公忠種

十二万石

元和三年ヨリ

松平伊豫守忠昌

曰五年越後ヨリ田へ所替

十五万石

曰五年ヨリ

酒井宮内少輔忠勝

同八年出羽鶴岡(所替)

十五石

同八年ヨリ以後

真田伊豆守信之

同

同内記信政

同

同伊豆守幸道

。當城主

同国

須坂 官有リ五十八里

一万石

堀長門守直佑

同国

坂本

官有リ四十四里

三万石

板倉申斐守

伊奈

官有リ四十三里余

板倉頼母重清

日国御代官

二百俵

平忠清

二百俵

後永原

二百俵

天目

百五十俵

御代

百俵

千村平

千石

小笠原

日国神社之部

諏訪大明神

既訪部之

以テミナカタクニコト

当社の高林ハ健御岩方命
の登跡として當國の一之也
桓氏天皇の御宇坂上田村丸忠
事のその丸と退治の時依願
社建之ト云

日下社

当社の正統以下照葉はく女体
ありと云

既傳の宗祀三月七日也毎年

世目麻の額七十五つ 傍奉之

上之社之社領 千石

下之社之社領 五百石

神主 大祝 武井祝

此外社僧社宜数多有之

戸隠明神 戸隠之立

為社の以神ハ常陸ハ志津
の社トシテ一体也ト云ク

社領千石 別當天台願光寺

八幡宮 川中島立

社領二百石 神主 杉田

日社 大谷村立

社領二十石

日社 伊奈那由村立

社領十五石

日社 伊奈那三ヶ所立

社領十四石

同社 鉾西村立

社領十石

大光明王 南原立

社領七十石 別當真二口

流石の社 佐人郡立

社領二十石

山王 六神村

為社の以神ハ常陸ハ志津
の社トシテ一体也ト云ク

社領十石

日光權現

吉川迄

南社の所祭体へ事代主命と
あつちまゝの所也

社領十石

大彦の所

小野村迄

社領十石

明神

水内郡表木村迄

社領百石

日

松原村迄

社領三十石

日

大谷村迄

社領二十四石

日

駒場村新庄迄

社領十石

日

小縣郡小村迄

社領十二石

日

高井迄

社領八石

日

川村迄

社領十石

日

沢江村迄

社領十石

日

堀越迄

社領八石五斗

経原權現

経原迄

社領十石

權現

川西村迄

社領七石

権現

社領十一石 伊奈那村松村

権現

一色村立 社領九石

弁才天

宿屋

惣社三社権現 節次作立 日十二社権現

同因中諸宗佛閣之大概

善光寺

欽明天皇十三年始之如本 日本に傳りありとの事 皇極天皇の御代に於て 善光寺の創之 後陽成天皇長二年七月十日

瑠璃寺

大嶋村立

寺領二十五石天台宗守之

閑祥寺

松城立

真言寺領五十石

練光寺

日所立

右同宗寺領二十五石

閑善寺

花園院の所領に於て創元也 慧玄禪師ト云フ所也 寺領五十石

西岸寺 飯嶋村

ち依二十八石古田家

長圓寺 松崎立

ち依百石洞家宗

龍雲寺 岩村立

ち依四十石古田家

松林寺 松山立

ち依二十石古田家

定濱寺 根津立

ち依三十五石古田家

深光院 堀江立

ち依十石古田家

宝相寺 佐久郡立

ち依十石古田家

本泉寺 一色村立

ち依八石古田家

大林寺 松林立

ち依七十石古田家

大善寺 駒場村立

ち依百石古田家

南古院 岸山村立

ち依百石古田家

正善寺 高井立

ち依十五石

妙法寺 長江立

ち依百石古田家

竹基の作立像の新迹

上人の建立ト云々

上人の建立ト云々

上人の建立ト云々

法衣寺

伊奈部立

當り自朗上人元基後當融院の御宇建立ト云

清涌院

小嶋立

右旧宗

妙善寺

駒場立

右旧宗

日国中右所之部

木曾殿

系より伊奈のくも中右所と云
此の系は徳川氏に井の系あり
四り中右所にて信及毒田家那本
系のくもあり是より中右
所ト云
此の系は伊奈のくも中右所と云

キリノミヤ

此の系は伊奈のくも中右所と云
此の系は伊奈のくも中右所と云

掛橋

是と云右所のりけ橋と云此の系
と云右所のり福橋と云右所のり
右地別けの橋と云田家のりめの
廻りけのりけ橋あり
此の系は伊奈のくも中右所と云
此の系は伊奈のくも中右所と云
此の系は伊奈のくも中右所と云
此の系は伊奈のくも中右所と云

文科

此の系は伊奈のくも中右所と云
此の系は伊奈のくも中右所と云

三つにわたりし文神の山

姨捨山 文神の山にありの山あり
山の人細きうき山にあり

あまの山にあり姨捨山にあり
姨捨山の山とありありに

三つにわ

文神の山にありの山にあり
山にあり後ち山にあり

山にありの山にありの山にあり
山にありの山にありの山にあり

山にありの山にありの山にあり
山にありの山にありの山にあり

氷海

氷海にありの山にありの山にあり
山にありの山にありの山にあり

山にありの山にありの山にあり
山にありの山にありの山にあり

桐葉 五月

桐葉の山にありの山にあり
山にありの山にありの山にあり

山にありの山にありの山にあり
山にありの山にありの山にあり

同国中名物

小人参 芍薬 杏仁 小梅

申柿 于蔴 蕎麦切 南園

自苧 コスキハカニ 木賊 トクサ 苧園房系

麻衣 カサキヌ 柎椹 ニササハラ 曲物ホニ

土井檜皮 トイエワダ 湖ウチギ日鮒

日鯉 コイ 日本鮭 ナライマケモノ 奈良井曲物

○系ありの堅金本島海乃
者く道法村高田中之分

大農田大井あり

高田庄中どの家也 六リす
ひらの所所道法村高田
田のふらふら

は中どのヨリ ことの二リ
らありありありありあり
所ありありありありあり

このヨリ ことの二リ
のうらららららららららら
のふらふら する二リ

○大井。今井と云ふ所今井
四郎居住の地と云り。この川
すけあり 上松、三リ九下

○あざむら。スサキあり松と云
松ありあり。この川と云ふ所四
みねあり。この川三町川のふら
る後差のこの川小所あり

川の中は川のふらふら
あのみは双のふらふらあり
上松ヨリ 鶴橋(二リ)

この川の中はふらふらの川は
あり別あり。この川ありあり
○この川と云ふ所はてこの川

本島川のふらふら。この川は
鶴橋あり 實の橋(二リ)
本島の府と云ふ所あり。この川
のふらふらあり。信長公の川

のふらふらあり。信長公の川

本島在馬以美政居あり
元初の法に美政の家へ山村
島を来りし橋はよ宿屋あり
尾及び若つものあり。よ田
○若野ト云ふことそこの
脇にあり

宮の傍ヨリ やこ東へテリ

○さくかんト

○い東ヨリ あらひハリ
○若野川にやうらの岩倉ら
儀物にけりそこの岩倉を宿
作といふあり

あつヨリ なる川ハリ

○平次。かゝる。○水宿
○さくかんト云ふことそこの岩倉
はなる川ヨリ なる川ハリ

○さくかんト云ふこと。宿屋
○さくかんト云ふこと。宿屋
あり揚子の東に松平館
○さくかんト云ふこと

りてあり せきハリ

せきあり なる川ハリ

なる川あり 下流宿ハリ

流宿あり なる川ハリ

社ありとの流宿の向ふ
さくかんト云ふこと。宿屋
なる川あり なる川ハリ

なる川あり なる川ハリ

なる川あり なる川ハリ

なる川あり なる川ハリ

なる川あり なる川ハリ

なる川あり なる川ハリ

なる川あり なる川ハリ

なる川あり なる川ハリ

揚あり

あつちのヨリ 志村田ハリ

ひらけらつとまふあり

志村田ヨリ 成つハリ

ひらけらつとまふあり

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

あつちのヨリ 長右ハリ

丹波のつらゝり 屋敷あり一三ノリ

のふ後たはさふ川新屋の
この田川系合新屋といふ處が
三筋あるのうさゆなより東
に西條あり講道場の原野
ありあつて西ノ宮の後に西ノ
山の中へく流るるのうさゆ
川の下遊後新屋のこの川の
○東河○あつて川。あつて
老人のむすぶゆ及ゆを記
す一羽たを長からし○海軍
川ありて川中流に云○松島
あり西條の下のちうくつあり
○八幡

のあちヨリ ころへ一ノリ

このあちのこころは川の向のあ
と姨捨のこのあちありちら
一○あちの月さつて是は姨捨の
こころにありあり

このヨリ ころへ一ノリ

このあちのあち

ころへヨリ 上田、三ノリ

あのうさゆちうくありたの
町の外にちうくありるあ
ありころへ云○中の條
○あちのうさゆちうくあり
の川とちうくありありあり
ありんせあり

上田ヨリ 田中、三ノリ

あちのうさゆちうくありたの
ありたのうさゆちうくあり
○あちのうさゆちうくあり
ありありあり

田中ヨリ 小治、三ノリ

あのうさゆちうくありたの
ありたのうさゆちうくあり
このあちのうさゆちうくあり
のあちあり○うさゆちうくあり
○あちあり

このころに 退命(二)りす
あつたをより 船を造り 船が
あつたは まゝに 守り 守り
はつたは まゝに 守り 守り
あつたは まゝに 守り 守り
流れて 守り 守り 守り
○守り 守り 守り

退命(二)り 守り 守り
下は 守り 守り 守り
守り 守り 守り 守り
守り 守り 守り 守り



守り 守り 守り 守り
守り 守り 守り 守り
守り 守り 守り 守り
守り 守り 守り 守り

